

令和8年7月2日

歯科診療における口腔がん検診を受診された皆様

千葉県立保健医療大学
健康科学部 歯科衛生学科
教授 酒巻 裕之

口腔がんは、直接観察できる部位に発症することが多く、早期発見・早期治療が可能で、予後の改善が期待できますが、進行がんが発見される例が認められます。また、口腔白板症などの口腔潜在的悪性疾患は、口腔がんの前駆段階の病変として位置付けられています。当歯科診療室では、地域住民の健康増進とがんの早期発見に資することを目的として、2011年より口腔がん検診を継続して実施してきました。このたび、約15年間にわたる口腔がん検診の結果を用い、口腔がんおよび口腔潜在的悪性疾患（OPMD）の発見状況や検診後の対応を後方視的に解析する研究を実施いたします。

本研究では、下記の情報を収集し、匿名化した上で統計的に解析します。個人が特定されることは一切なく、研究成果は学会発表や学術論文にて公表されます。

本研究へのデータ利用を希望されない場合は、研究対象から除外いたしますので、恐れ入りますが下記の連絡先までご連絡ください。

ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究の名称：千葉県立保健医療大学歯科診療室で実施した口腔がん検診結果に関する検討

研究対象者等に通知し、又は研究対象者等が容易に知り得る状態に置くべき事項

① 情報の利用目的及び利用方法

千葉県立保健医療大学歯科診療室で実施された口腔がん検診の実態を明らかにすることにより、口腔がん検診の意義について検討することを目的として、口腔がん検針票等の記録を集計して検討いたします。

② 利用する情報の項目

利用するデータの種類：口腔がん検診票、口腔がん検診精密検査依頼票、
歯科診療録

利用するデータ：受診日、誕生日（受診時満年齢算出に使用）、受診時年齢、性別、受診回数、主訴、医科的既往歴、喫煙歴、飲酒歴、口腔内状況、病変部位、臨床診断、歯科的所見、総合判定、
口腔がん検診後に自院で経過観察や精密検査を行った場合は、歯科診療録から、細胞診結果、検診後の経過（確定診断、初回治療）の情報

総合判定「要精密検査」の場合は、診療録の情報と精密検査依頼票に二次医療機関で記入された情報

③ 利用を開始する予定日：令和8年7月2日

④ 利用する者の範囲：研究者のみが利用します。

- ⑤ 情報の管理について責任を有する者の氏名
千葉県立保健医療大学健康科学部歯科衛生学科 教授 酒巻 裕之
- ⑥ 研究対象者等の求めに応じて、研究対象者が識別される情報の利用を停止する旨
本研究では、特にご意思のない場合には、上記の目的に従ってデータを利用させていただきます。データの利用をご希望でない場合には、下記の方法でお知らせください。お申し出を頂いた後、該当するデータは研究対象から除外いたします。データの利用を希望しない場合（拒否）でも、不利益を被ることはありません。
- ⑦ ⑥の研究対象者等の求めを受け付ける方法
データの利用をご希望でない場合には、以下の連絡先にご連絡ください。
連絡先：
千葉県立保健医療大学健康科学部 歯科衛生学科 酒巻 裕之
電話番号・FAX：043-272-1794
メールアドレス：hiroiyuki.sakamaki@cpuhs.ac.jp